

昔の技術で やってみました!

企画趣旨

21世紀を迎えた現在、われわれの生活は100年前の人びとからは想像できないほど豊かになった。日本中の道が舗装され、至るところに立派な橋が建設された。暴れ川と称され、これまで幾度となく水害をもたらした河川は、洪水に耐えうるよう整備され、上流では大規模なダムによって貯水や発電が行われるようになった。蛇口をひねれば水が出てくるのは当たり前で、上下水道技術の発達により衛生状態は向上した。しかしながら、そこに至る道のりは決して容易なものではなく、人びとの「もっと便利で、豊かな生活がしたい」という強い思いに応えてきた土木技術者の力の結集であったに違いない。そんな土

木の偉大さを理解するにはどうしたらいいだろう。ひたすら本を読めばいいのか。資料館に行くだけで満足していいのか。いやいや、先輩技術者が築き上げてきた技術を、この目で、この手で体験してみなくては始まらないのではないか。

本連載では、西洋の土木技術が伝わり始めた明治以前の偉大な先輩技術者や、その優れた技術にスポットを当て、当時の技術を体験していく。そのうえで、現代の豊かな生活がそれらの礎の上に成り立っているということを実感し、土木の素晴らしさ、土木技術を進歩させてきた人間の創造力のすごさを改めて考える機会となれば幸いである。(澤村康生)

編集企画主査 澤村 康生
編集企画担当 学生班